

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を作り、ホームの見やすい所(3ヶ所)に掲示している。	○ 利用者や家族の面会時や来客者に掲示している。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝ミーティング前に出勤者全員で唱和している。	○ 理念を念頭におき、日々の生活の中で常に介護に当たっている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者や家族の面会時・来客者に掲示している。パンフレットに載せている	○ 掲示していることを知らせる。ホーム便りに理念や地域密着の理念を載せる。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	運営推進会議時に、出席の公民館長を通して地域の方に働きかけてもらった。	○ 回覧で地域の方に働きかけて交流の機会を持つようにする。(西豊満地区の公民館長)
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の文化祭に行き、知人に会い話しをする事が出来ている。	○ 地域の行事を調べて色々な行事に参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	推進会議の中のテーマで話し合ったが出来なかった。	○	公民館長を通じてその場を作ってもらえればやりたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を前向きに取り組み、改善すべき事は話し合いながら取り組んでいる。	○	早急に出来る事・時間を要する事を配慮しながら、質の向上が図れるよう前向きに取り組んでいく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「議事録」を作成し、自由に閲覧できるようにコーナーを設置している。地域の方に園芸の援助や、ホームでの花見会の内容・地区の行事日を委員の方に尋ねて、依頼やアドバイスを得られるようにしている。	○	それぞれの立場からの専門的な意見をもらい、サービス向上に取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	在宅部会(社会福祉協議会)や市主催の説明会に出席し、周知したうえでサービスの向上に努めている。	○	出席出来なかった職員にも説明会等での内容を報告して、サービスの向上に取り組んでいる。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在対象者はいないが、制度の事は全職員で周知できるようにしている。	○	対象者があった時には関係者と話し合い、個々にあった制度を活用できるよう取り組んでいく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞の切抜きや勉強会で学んでいる。利用者で特定の利用者に対して暴力行為のある方へは、職員が大事に至らないよう対応している。	○	職員間の連携を図り、利用者が安心して生活できるように取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
。りようしゃ			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・退去時必ず説明し、家族の同意を得て署名・押印してもらっている。	○ 解約時には家族や利用者が納得でき、状態に合った暮らしが送れるように、協力期間との連携が図れるようにしている。日頃のコミュニケーションで信頼を得ている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常会話の中で職員が聞き取り対応している。又、他の部署の職員や介護相談員に、話を聴いてもらっている。	○ 傾聴して、満足や安心感が得られているかを話しかけや状態で確認できるようにしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを年3回発行している。面会時には近況報告している。健康状態によっては電話で知らせている。	○ 金銭管理はサイン・押印してもらっている。暮らしぶりをホーム便りの他・インターネットでメールや写真を送り知らせている。現在3件だが、今後も続けていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の窓口を設けている。又、苦情解決の仕組みの概要図を掲示している。	○ 面会時や電話で、状態の報告やリスク等を知らせていき、誠実な態度で信頼関係を気づいていくように取り組んでいく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや定期的なサービス検討会を利用している。	○ 全職員の意見や提案があったことをミーティングノートに記入し、各々目を通しサインし共有している。質の向上を図る。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況を把握し、利用者や家族に負担がいかないよう話し合いや勤務調整を行っている	○ 今後も話し合いをして勤務調整を行っていく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限にしている。異動で新しくホームに勤務になった時には、利用者とのふれあう場をなるべく多く持つようにして、早くなじみとなるようにしている。	○ 利用者の情報を知って対応できるようにしていき、職員も積極的に情報を持てるようにアドバイスし、利用者との関わりを多くもてるようにしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の外部研修の機会を多くし、学ぶ場をもっている。</p>	○	なるべく全職員が外部研修に参加できるようにして、研修内容を職員研修の場やミーティングの場で話すようにしている。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会の研修会に参加し、同業者との交流を図っている。</p>	○	全職員が研修会に参加し、情報交換を行い交流や質の向上を図るようにする。(今年度から定例会が出来た為、研修会や勉強会が増える予定である。)
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>見守りが常時必要な為、適宜休憩をとっている。勤務表には、職員の希望を取り入れている。</p>	○	リフレッシュ休暇をとれるようにしていく。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員が誇りを持って、仕事に携わっていけるように努めている。</p>	○	研修に行ったり、資格を取りやすいように働きかけていく。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前調査では、利用者本人から聴くことは難しく同席者からの発言が多い。本人からは利用後に聴いている。</p>	○	訪問調査を増やしたり、ホーム見学を多くしてもらえるように働きかけていく。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談時は家族の思いを傾聴し、安心してもらえるように努力している。</p>	○	今後も相談しやすい雰囲気を作る。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報収集や本人家族との面談時に、意向や要望に応じていく事や他のサービス利用の説明をしている。	○	他のサービス機関との連携を図るようにしていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心してもらえるように、声かけやふれあいを多くしサービスしていく。	○	入所前に家族と一緒に遊びに来てもらい、なじみになってもらうよう取り組む。家族の意向や状況も大切にしている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の意欲が高められるように、一緒に洗濯物の干し方たたみ方をしたり、料理の仕方等を教えてもらったりしている。	○	回想法を取り入れて生活歴を知り、本人の知識を引き出し自尊心が高められるようにしていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との交流を図り一緒に支えている。	○	ホームページで交流を図っている家族もいるが、家族と一緒に集える行事を計画していきたい。ミニドライブなど行事計画を家族に知らせる。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には、居室でゆっくり寛いでもらっている。身元引受人を皆周知し、対応している。	○	ホームページで、本人と家族の関係がよりよくなるよう手助けしたり、手紙や電話などでも交流できるよう支援する。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所との関係が途切れないようにしている。利用者が、病院入院中の知人との電話交流や手紙の交換などがある。	○	ミニドライブに行けない利用者には、写真やデジカメの動画を見てもらう。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が見守りや声かけを行い、孤立せず支え合えるように努めている。	○	利用者同士が日課の中で支えあう場を作っている。(作品作り・ウメ漬け・ラッキョ漬け・ちまき作り等)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在の所、関わりを持っている利用者や家族はない。	○	今後、関わりを必要とする利用者や家族には応じていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望・意向に努めている。困難な場合は家族と相談しながら、意向を大切にしている。	○	本人のできる事・したいと思っている事を把握し、楽しい生活が送れるように支援していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴をよく知り、ケアプランに取り入れてサービスに努めている。	○	継続できるようにサービスに取り組んでいく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりに合った生活パターンで穏やかに過ごしてもらっている。	○	その利用者のできる事を一緒にしながら、張りのある安心安全な生活が送れるよう支援する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必要時には要望を聴いている。担当者を中心に生活状態を知り、家族の要望を聴き話し合いを持って作成している。	○	家族とのコミュニケーションをとり、要望を聴き、介護計画に反映していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直している。変化があった場合、利用者の状態をよく知り、家族・医師・看護師に相談し、訂正の見直し・作成にあたっている。	○	本人の状態や医師の診断書・家族の要望に基づき、作成している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録をとり全員が情報を共有し、介護計画に活かし実施している。	○	気づいた事はすぐミーティングノートに記入し、見直しに活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人ひとりに応じた支援をしている。家族から家庭菜園の野菜をもらっている。すぐに調理し食べてもらっている。	○	身体状態によりマイクロやリハビリができる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の消防団・地区の公民館等と交流がある。庭などを利用しての花見や宝探しなどを行った。	○	今後も定期的に計画をたて交流を持っていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	母体のディサービスとの交流をしている。	○	増設があるので今後ケアプランに取り入れる。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	まだその対象者はいない。	○	必要に応じて、包括支援センターと連絡をとり、関わっていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意向を大切にしている。又、協力機関の病院もあり、適切な医療を受けられるように支援している。	○	希望があれば、家族のかかりつけ医との連携を図っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的(月1回)の嘱託医の往診や個々の受診時には、利用者に負担がかからないよう時間の配慮等をしている。	○	日課の中で認知症のすすみ度や(行動・言動)状態観察を報告して、医師とのコンタクトをとっている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	兼務の看護師に相談し、健康管理や医療活用の支援をしている。	○	利用者の健康状態は常に職員が観察し、気づいた点は直ぐに報告・相談するようにしている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	関連医療機関との連携をとりながら、早期退院に向け努めている。	○	入院になったときは毎日職員が交代で病院に出向いて、状態を看護師に聴きホームで情報を共有している。退院が決まればホームでの生活を家族と相談し、積極的に取り組んでいる。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を大切に、医師と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	○	重度化や終末期がホームでできるように取り組んでいく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	必要があれば取り組んでいく。	○	家族を含め、医療面や介護面を話し合い前向きに取り込んでいく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報交換を行い、家族の協力を得て医療機関と相談しながら支援している。	○	本人の意向を大切に、環境変化に順応できるように関わりを多く持つていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊重した声かけをしている。記録などの個人情報は保管している。	○ 今後もプライバシーの確保の徹底に努めていく。個人情報の取り扱い書類の持ち出し厳禁厳守。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の思いを大切にして、対応しながら納得のいけるような支援をしている。	○ 利用者の表情・態度・言葉かけから意思表示をつかんでいる。面会時には、家族から本人の要望を聴いている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にして、希望に沿って支援している。	○ その人らしい生活の中で体に負担がかかったり、危険性を伴う時は話し相手になったり付き添って、少しでも希望が叶えられるように支援している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望でクリームや化粧品を買い、身だしなみやおしゃれができる様にしている。又、「カットマン」を利用し、2ヶ月に1回の間隔でカット・顔そり・パーマ・ドライシャンプー等してもらっている。	○ 整容の乱れ・汚れに対しては、自尊心を傷つけない様さげなく支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	作り方を教えてもらったり、味見や盛り付け・台拭き・食器洗いなど出来ることをしてもらっている。	○ 好物を知り献立に活かしていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒・たばこをたしなむ利用者はいない。おやつは季節感を取り入れ手作りしている。	○ 昔なじみのおやつ作りを取り入れながら、一緒に楽しんでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレの訴え時にはトイレ介助やオムツ交換している。排泄チェックをしているが、年齢と共に紙パンツ等の使用が増えている。	○	日中トイレに立たない利用者には、言葉かけを工夫したり、職員も交代で声かけし、誘導している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとり湯をはりかえ、ゆっくり入ってもらっている。	○	入浴が出来ていない利用者には、清拭・着替え・足浴・ドライシャンプー等に対応する。入浴嫌いな利用者は、足浴から徐々に入浴したい気分になるような声かけをしている。職員も交代で声かけしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠できるような声かけをしている。動きの激しい利用者には、休息の声かけをしている。	○	睡眠状況表をチェックし、安眠できるようにしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分で役割や好きな事を行っている利用者がある。自分から進んで行えない利用者には、声かけや場面作りをしている。	○	居室で過ごす利用者には、話題を作り楽しい時間が持てるようにしていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月1回の外出時買い物ができる利用者は、職員と一緒に買い物している。	○	毎月1回のミニドライブ時、行く途中でジュースやお菓子を買い、現地で食べることもある。利用者が家族に電話したい時は、公衆電話を利用してもらう(ホームに設置してある)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	増設で危ない為、外出できない。(4月～9月)	○	工事が終了したら、戸外に出かけられる様支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力がある所は、出かけられるよう支援している。病院受診を利用して自宅へ戻る利用者がある。(車中から)	○	家族の協力があれば、出かけられる機会を作り、支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をかけたり手紙のやりとりができています。	○	一人の入居者はできている。できない人にはスタッフが関わりながら、取り組んでいく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自室やホールで、一緒にお茶を飲み楽しく過ごせるようにしている。	○	ふるさと通信でもっとホームを訪問してもらえるように働きかける。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に拘束していない。自分で起きてベッドに腰掛けられるように2個のベッド柵をしている利用者の転倒があり、家族の希望で夜間のみベッド柵の間にいすを固定していたが、4/7病死された。	○	拘束しないケアに取り組んでいく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	4月から増設中で危険防止の為、施錠している。(昨年外部評価前は門扉を12時から13時まで開放していた。外部評価後は12時から13時30分まで開放した。)	○	10月の開設後は施錠時間を少しでも短くするようなケアに取り組んでいく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通してプライバシーに配慮しながら、日中は居場所の確認・夜間は巡回に心掛けている。それ以外にも訪室を行い、安全を確認している。	○	所在の確認ができなかった時は、警察や母体施設へすぐ連絡をとり協力を得るようにしていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ・包丁・洗剤・石鹸や消毒剤は、施錠できる所に保管している。	○	自分で管理できる利用者は、居室に置いてある。(ポリデント)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや勉強会を通して一人ひとりの状態に合わせた事故防止に取り組んでいる。	○	勉強会や訓練を通して、事故防止の知識を学んでいる。歩行不安定な利用者には付き添う。傾きのある時は付き添い・見守る。誤薬のない様に薬の仕分けや服用時などは、2重3重の確認を行う。現在増設中で危険防止の為に施錠して所在確認が取れない入居者はいないが、開設後はデジカメで写真を撮り服装チェックしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訓練はしているが、定期的には行っていない。スタッフルームに応急処置のマニュアルを貼って備えている。	○	看護師との連携をとり、定期的に訓練していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体施設と連携をとり、地域の協力が得られるように交流している。	○	地域の人との交流は深く、ホームは周知されており協力体制はできている。地域の人に対し、避難場所が提供できる。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	身元引受人の面会時には、状態変化を全員が心掛けている。必要によっては、電話で連絡する。	○	状態によっては囑託医と看護師から説明をしてもらっている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行っている。ミーティングノートで情報を共有している。異常があれば、看護師に報告し指示をもらっている。	○	状態が悪化しないように情報を共有し連携に努める。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の薬の効用を明示している。服薬に関しては、状態観察をして変化があれば看護師に相談している。	○	職員が薬の目的や副作用をもっと明確に理解できるようにしていく。服用時は間違いのないように何回も確認する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給は充分に行っている。便通の悪い利用者は緩下剤を使用している。母体施設の管理栄養士の献立を利用して、バランスのよい食事を摂っている。	○	排便確認の難しい利用者は、職員が意識を持ってトイレの後など確認する。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後自分で歯磨きできる利用者には声かけし、できない利用者には介助して口腔内の清潔に努めている。口内炎などは、本人の訴えや状態観察をして早目の対応をしている。	○	口腔内の清潔が保たれるよう支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の少ない利用者は、水分チェック表を作成し、不足しないようにしている。食事量も、一人ひとりの状態に応じた量を提供している。(胃腸疾患・ペースの遅い方など)	○	一人ひとりのその時の体調に合わせて、食事量の増減や水分補給を行っている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い励行・消毒・うがいを声かけし実行している。正しい手洗いの仕方を洗面所に貼っている。利用者は全員インフルエンザの接種をしている。職員も同じく予防接種し、排泄介助時には手袋を使用している。新型インフルエンザ対策として、職員も毎日検温している。マスクやエプロン・消毒液も準備してある。	○	流行時には外出を控えている。来客者・面会者にはマスクや消毒をしてもらっている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、毎日使用する分のみ仕入れ新鮮な食材を使用している。調理器具は必ず殺菌・消毒し乾燥している。	○	魚は水洗いして調理している。配達された食材はすぐ冷蔵庫に保管している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は広く、雨の日の出入りも便利である。玄関には長いすを置き、季節の花を飾り四季を感じてもらっている。バリアフリーである。	○	玄関周りの掃除を徹底する。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチン幅広く一緒に盛り付け等ができる。旬の食材で季節を感じてもらっている。庭には季節の花や野菜を植えている。	○	今後も居心地のよい暮らしができるように工夫していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同士が過ごせるように、ホールには大きなソファを置いている。廊下にはいすを置き、休んだり外を眺めたりしてもらっている。キッチン前にもソファを置き、職員や他の利用者とおしゃべりできるようにしている。	○	居室前には、個人の好きな花を植えている。楽しんでもらっている。(ほうずきなど)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真・手作りのクッションなど置いている。	○	二段の整理ダンスを切り離し、その利用者に応じた使い方をしている。居室で日誌や手紙をかかれる入居者には物品が切れないようにしたり、快適に過ごせるようにしたりして継続できるよう支援していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夜勤明けは、窓の開閉を行い空気の入換えを行っている。日中は空気が常に流れるように開放し、温度・湿度計を見ながら空調を行っている。食堂には”よしず”をたてている。訪室に心掛けて、居室の調節も行っている。	○	季節感を失わないような温度調節を行っている。
たてている。				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドのマットレスが高くベッドから落ちる危険性のある利用者の為に、マットレスを外して無圧の敷き布団に替えた。一人で起き上がるのが難しい利用者にベッド柵を1本つけている。(6名)	○	その都度見直していく。自立した生活が送れるよう工夫していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失敗しても混乱がないよう見守り、自尊心を傷つけないような声かけをして、持てる力が発揮できるようにしている。	○	トイレの場所の表示をわかりやすくした。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑を作ったり桜を見る場所がある。食堂から見える中庭では、洗濯物や布団を干したり、花や野菜を植えたり、梅のへたとったりした。七夕も飾った。	○	今後も中庭やテラスでできるような活動をしていく。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホーム内が広くて明るい。食堂からは中庭が見えて自然が楽しめる。母体施設の管理栄養士の献立を利用しバランスのよい食事を提供している。食事が出来上がるのを楽しみに食堂で待ち、職員と一緒に食べることで家庭的な雰囲気をもっている。又、3家族がインターネットを利用し、家族に入居者の様子を写真や動画で知らせている。とても喜んでもらっている。